

公開用 研究内容

人体から取得された試料を用いない後ろ向き研究では、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づきオプトアウトをする必要があります。人体から取得された試料を用いる後ろ向き研究では、同意を取ることが困難な場合^{注)}に適用されます。したがって、下記の表に記載していただく事項をホームページ等で公開いたしますので、責任をもって記載して下さい。

研究課題名	肝細胞癌に対する経動脈的処置（検査・治療）における橈骨動脈カテーテルアプローチ法の手技習熟・効果・安全性に関する調査
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>肝細胞がんの診断・治療目的で行腹部血管造影検査において、最近私たちの施設ではカテーテルを手首の血管（橈骨動脈といいます）から挿入して行う方法を採用しています。これはその方が検査終了後のベッド上安静がなく、侵襲性が低いからです。当院においては2017年から行っていますが、今回、同様な手技を行なっている他の施設と共同して橈骨動脈からカテーテルを挿入して検査を行なった多くの患者さんと、手技の定着のし易さ、合併症の有無、患者さんの満足度などを調べます。</p> <p>【方法】</p> <p>対象となる患者さん</p> <p>大垣市民病院で肝細胞がんの診断を受け、橈骨動脈からカテーテルを挿入して腹部血管造影検査を行なった患者さん。</p> <p>利用する検体、カルテ情報</p> <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：患者さんの年齢・性別や持病の有無、検査にかかった時間、検査・治療の成否、合併症の有無などの情報</p> <p>【提供方法】</p> <p>過去に橈骨動脈からカテーテルを挿入して血管造影検査を行なった患者さんのリストから、カルテから上記の情報を調べます。</p> <p>【利用範囲】</p> <p>自施設</p> <p>【情報管理責任者】 豊田秀徳</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、情報の提供を停止します。</p>

対象疾患	肝細胞がん
研究責任者	大垣市民病院・消化器内科 豊田秀徳
承認年月	2023年3月

注) 同意を取ることが困難な場合とは

本人の同意を得ることが物理的にできない場合

- ・過去に取得した試料を用いる場合であって、匿名化されている(特定の個人が識別できないものに限る)場合は、同意取得が困難

取得から相当の時間が経過している等により本人の連絡先が不明

本人の連絡先の特定等の同意を得るために必要な手続きにかかる費用・時間が極めて膨大である場合

- ・既存試料・情報であって、研究対象者が極めて多い場合(コホート研究等)

等

*公開にあたり、事務局にて記載内容を一部修正させていただくことがあります。